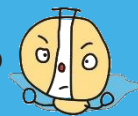


西成特区構想の「今ここ」をお伝えする News Letter



VOL.02

西成特区構想ニュースレター

発行／令和3年8月20日 発行所／大阪市西成区役所総務課 〒557-8501 大阪市西成区岸里1-5-20

令和3年度 新今宮エリアブランド向上事業を開始

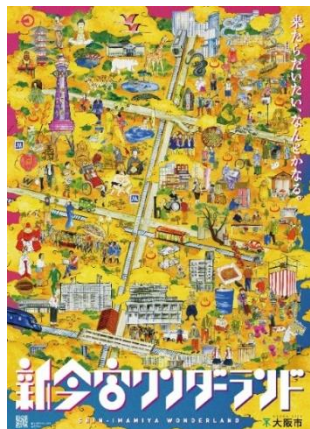
1 新今宮エリアブランドのめざす姿

令和3年3月30日付け「新今宮エリアブランド基本戦略」を策定しました。この戦略は、行政の基本戦略として今後の新今宮のブランディングに活用するものです。西成特区構想の一環として、今後、新今宮エリアを大阪ミナミの新たな玄関口として発展させ、「大阪都市魅力創造戦略2025」がめざす大阪全体の都市魅力向上に資するよう、エリアブランドの向上を図っていくこととしています。



(SDGsにおける目標)

新今宮のエリアブランディングとは、人々が「新今宮」と聞いたとき、様々な魅力やポジティブなイメージを思い浮かべることができ、行ってみたい、泊まってみたい、住んでみたいと思われるように、新今宮の内外に向けてまちの魅力や価値などを正しく伝えようとする取り組みです。



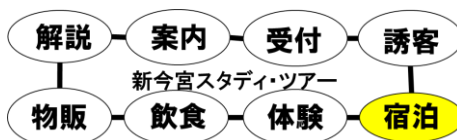
(PRポスター)



新今宮
ワンダーランド
ホームページ

通常は民間で行われることの多いまちの情報発信を、本市が初動支援としてツール作成や情報発信を行い、将来的には民間主体による情報発信が自立的に行われるよう移行することをめざしています。

2 令和3年度に実施する事業の内容



新今宮エリアの最たる魅力として「地の利」についてはよく知られていますが、「社会的包摂性」や、西成特区構想によって生まれた「地域環境の改善」「近未来に向けた変化の兆し」はあまり知られていません。そこで、令和3年度は、面白おかしくではなく正しく知ってもらうよう、教育機関や法人などに社会的な学びを提供できるスタディ・ツアーの内容を検討します。

3 新今宮エリアブランディングのポイント

ブランディングは、浪速区役所や民間との窓口である経済戦略局と情報共有をしながら、星野リゾートの開業など官民連携によるまちづくりに関連する動きも含め新今宮駅を中心とした北と南一帯の「新今宮エリア」として実施していきます。

4 有識者からのコメント

まちの人々がひざを突き合わせて思いを紡いできた西成特区構想も8年が経過し、ひとつひとつ具体的な形にしていける段階にあります。この事業が、まちの人たちが願うまちづくりの一翼として、つながりや広がりを生むきっかけになることを願っています。

寺川政司（近畿大学・准教授）

新今宮エリアブランド向上事業を通じて地元に対する愛着が深まることを期待しています。新今宮ワンダーランドのホームページを未読の方は是非ご覧ください。いろんな発見があると思います。

白波瀬達也（関西学院大学・准教授）

関空に降り立った旅行者は、西成区でも浪速区でもなく、新今宮を目指します。関空と新大阪を結ぶのにわ筋線が開通したら、新今宮は大阪市の新しい玄関。新今宮の魅力を見極め発信するこの事業に期待しています。

松村嘉久（阪南大学・教授）

古代から明治初期まで、この地には東成郡と西成郡の境界が走り、西は今宮村、東は天王寺村でした。四天王寺や住吉街道、城下町の周縁に関係する由緒が盛り沢山の地です。この「新今宮」で新たな歴史・地理を紡ぎましょう。

水内俊雄（大阪市立大学・教授）

事業はエリアマネジメント協議会「地域活性化交流・観光専門部会」の有識者や地域委員の意見等も踏まえ進めています。

新今宮エリアブランド向上事業と西成特区構想

西成区北東部の新今宮エリアは、今後大きな発展が見込まれるエリアです。まちの変化の時機を逃すことなく「西成のマイナスイメージ」という西成区全体の課題を解決していこうとしています。新今宮エリアが新たな大阪の玄関口として発展するように、全国へアクセスが良く、安心安全安価な宿泊施設、日雇労働市場、多様な支援活動、ホルモン、銭湯、芸能や娯楽、昭和レトロなど、ここだけの魅力が豊富な事をひろく発信しています。

西成特区構想のセンターピンは
あいりん地域の諸課題

